

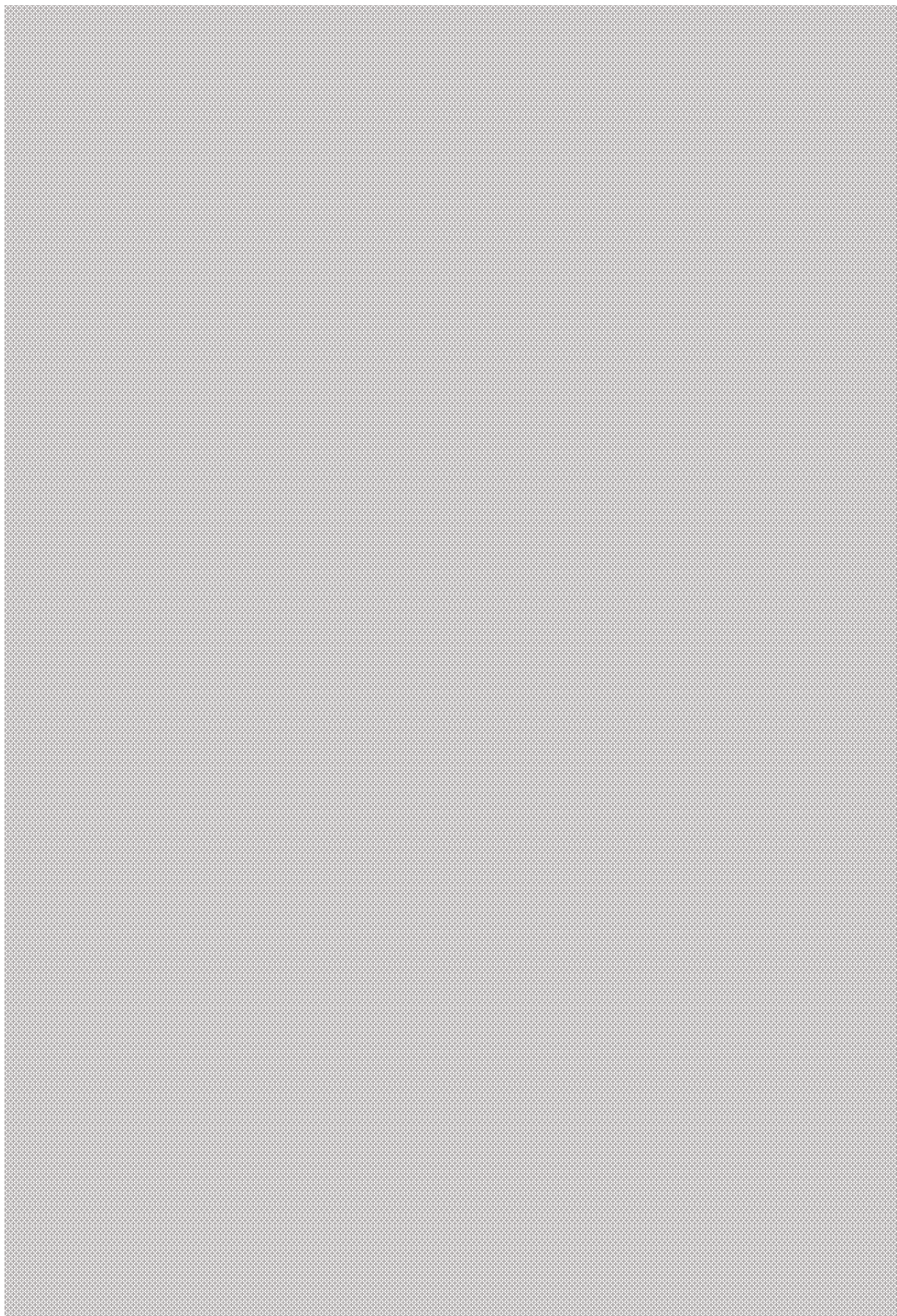
令和 7 年度 東京都立調布南高等学校

すいせん 推薦に基づく選抜

小論文

ちゅういじこう 注意事項

1. 問題は設問Ⅰから設問Ⅲまでで、2 ページにわたって印刷してあります。
2. 検査時間は 50 分で、終わりは午前 9 時 50 分です。
3. 声に出して読んではいけません。
4. 答えはすべて解答用紙に明確に記入し、**解答用紙だけを提出しなさい。**
5. 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
6. **受検番号**を解答用紙の決められた欄^{らん}に記入しなさい。
7. 解答用紙について
 - (1) 縦書きで書きなさい。
 - (2) 必要に応じて、段落を設けてもよい。その場合は空白を 1 マスとして数える。
8. 問題の内容についての質問には一切応じません。



(余白)

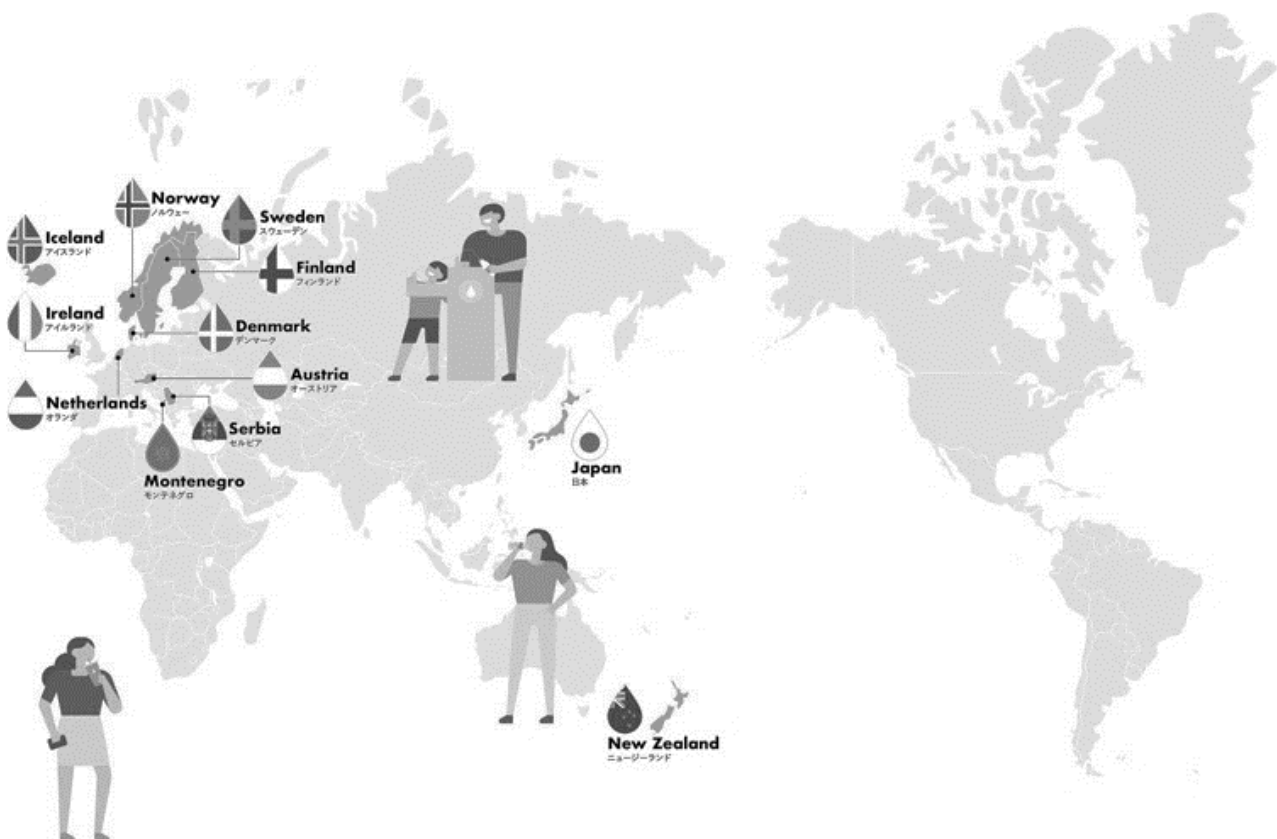
水は私たちの生活を支える貴重な資源であると同時に災害などを引き起こすこともある。

国土交通省が発表している水資源や水害に関する資料1から資料3を参考に以下の設問に答えなさい。

資料1 (2022年発表)

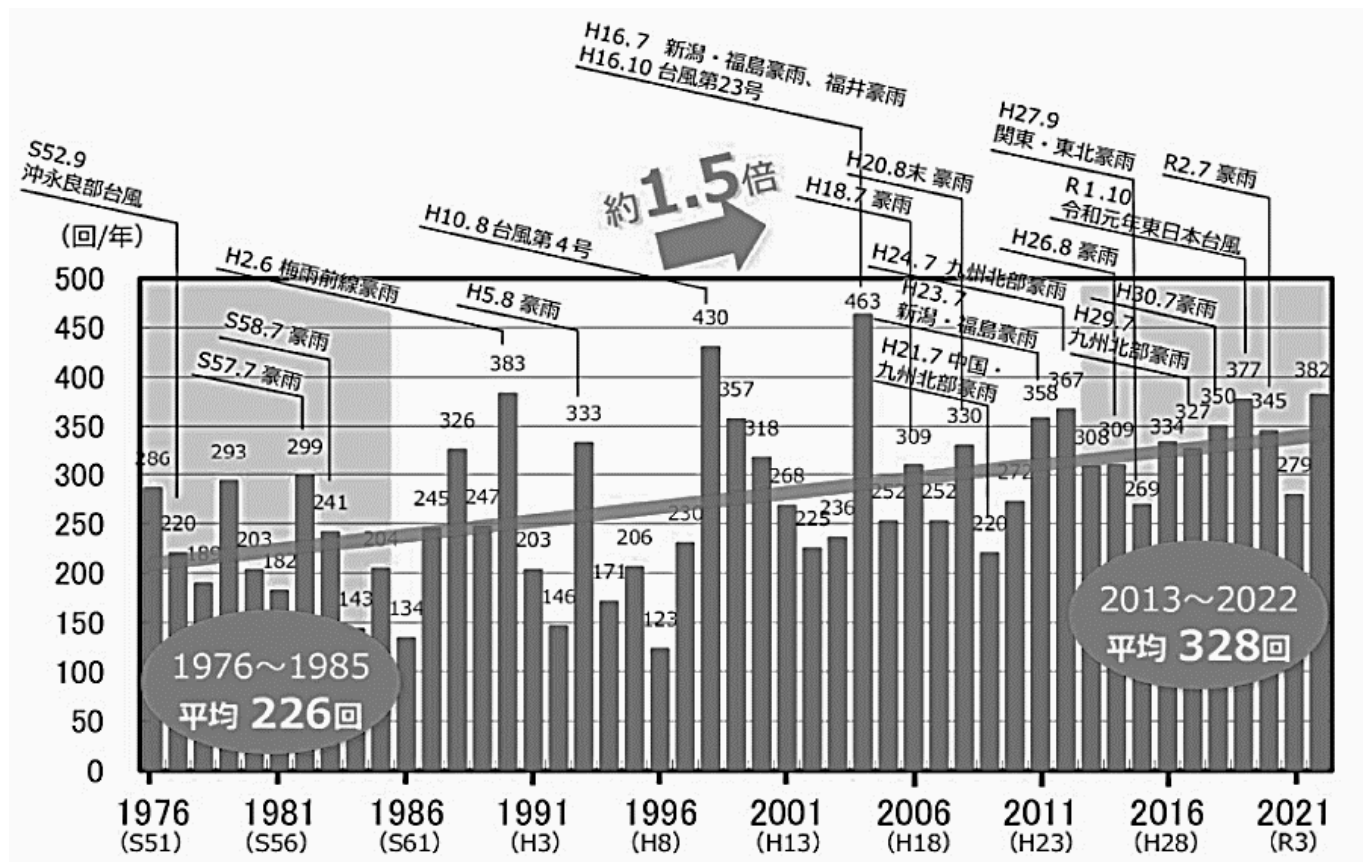
地球上に存在する水の量は、およそ 14 億 km^3 であるといわれている。そのうちの約 97.5%が海水等であり、淡水は約 2.5%である。この淡水の大部分は南・北極地域などの氷や氷河として存在しており、地下水や河川、湖沼などの水として存在する淡水の量は、地球上の水の約 0.8%である。さらに、この約 0.8%の水のほとんどが地下水として存在し、河川や湖沼などの水として存在する淡水の量は、地球上に存在する水の量のわずか約 0.01%、約 0.001 億 km^3 にすぎない。

資料2 水道水が飲める国、12ヶ国(2021年発表)



Austria オーストリア	Denmark デンマーク	Finland フィンランド	Iceland アイスランド	Ireland アイルランド	Japan 日本
Montenegro モンテネグロ	Netherlands オランダ	New Zealand ニュージーランド	Norway ノルウェー	Serbia セルビア	Sweden スウェーデン

資料3 雨の降り方の変化（1時間降水量50mm以上の年間発生回数）（2022年発表）



設問Ⅰ 次のアからオについて、資料1から資料3の説明として正しいものには○を、誤っているものには×を、それぞれ解答欄に記入しなさい。

- ア 地球上に存在する淡水のうち、河川や湖沼などに存在する淡水の割合は0.4%である。
- イ 世界で水道水が飲料水として使用できる国は、北半球にかたよっている。
- ウ 世界で水道水が飲料水として使用できる国は、国連加盟国（193か国）の5%未満である。
- エ 1時間降水量50mm以上の年間発生回数が最も多い年は2004年である。
- オ 1976年以降、関東地方は豪雨に見舞われたことが無い。

設問Ⅱ 資料1、資料2をふまえ、日本を取り巻く水環境について100字以内で述べなさい。

設問Ⅲ 資料3にあるように、近年日本では水害等の危険度が高まってきている。また、水害に限らず災害発生時には、高校生が共助の役割を果たすことが期待されている。あなたが考える日ごろの備えと災害時に高校生が果たすことができる役割について400字以内で述べなさい。

(余白)

